

## 令和2年度 学校評価実施報告書

学校名 ( 京都市立桃陵中学校 )

<b>教育目標</b>	
『自ら学ぶ 豊かな心をもつ 社会に貢献する 生徒を育む』	
<b>年度末の最終評価</b>	
自己評価	<b>教育目標の達成状況, 次年度に向けた見直し</b>
	自ら学ぶ意欲という点において、臨時休校時に家庭学習の習慣が少し定着した。再開後も1年間を見通した教育課程の実施の下、学習確認プログラムの結果は大変良好な結果を示している。また、学校評価アンケート結果を見ると、全般的に昨年度から前期に少し改善傾向であったが、後期もほぼ同じレベルで推移した。以上のようなことから、概ね達成できたと考えている。つけたい資質・能力の見直しを考えながら、次年度の改善点を考えていきたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	落ち着いた教育環境で生徒たちの学習や活動が保障され、各種調査の結果も良好であることを評価したい。引き続き生徒の学力向上に取り組んでほしい。また、生徒指導面でも大きな問題行動もなく教育活動が進められていることを評価している。
	小中一貫校ではないが、一小一中の地域である。そのメリットを最大限にいかす連携・協力を期待している。小中合同研修会で教職員どうしの絆が深まったと聞いている。小学校PTAと中学校PTAの合同で実施する地域行事がほとんどできなかったのも、来年度はこの地域らしい工夫をしてもっと連携して、子供たちにとって良好な環境作りしてほしい。

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月22日	学校運営協議会 役員, 委員
最終評価	令和3年2月24日	学校運営協議会 書面提案の意見書による

## (1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

<b>重点目標</b>
① 基礎基本の徹底に努めるとともに、わかる喜びと学ぶ楽しさを実感させる授業の確立に努める。 (「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善)
② 自らしっかり考え、自分の考えや思いを伝える力の育成と、言語活動の充実に努める。
③ 深い学びを創出する言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。
④ 指導と評価の一体化を目指し、学習評価の妥当性と信頼性を高める。
⑤ 家庭学習の定着を図るとともに、個々にあった学習課題の設定に努める。
⑥ 道徳の時間で道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考え共感する、豊かな心を育む。
⑦ 支援を要する生徒の自立を目指した総合育成支援教育の充実に努める。

## 具体的な取組

### ★学習指導の充実

- ① 基礎学力の定着を図る。
- ② 学びに向かう力・人間性等，知識・技能，思考力・判断力・表現力等の3つの資質・能力を全ての教科等で育成を図れるように研究していく。

### ③ 授業改善・授業の工夫…

☆「主体的な学び」を促す授業の工夫，「知識・技能を活用して思考させる」ための授業改善を目指し，日々教科指導力を自己研鑽する。

☆授業スタイルのパターン化→（1）授業の始めに「本時（○時間）の目標」

…タイトルでなく，具体的な行動目標として表現したものを提示，授業の振り返りにつながる目標であること。

（2）授業の最後に「振り返り」…この時間で学んだことを自覚させる。

☆言語活動や問題解決的な学習の充実…言語活動を充実させることで，言語化するための思考を促し，言語化することにより，言語による対話を促して学びを深める場면을積極的に学習活動に取り入れる。

☆活用・展開の仕方についての研修を深めて，授業改善や授業力を向上させる。

☆授業の環境作りを徹底→集中力アップにつながる。

☆ベル着の徹底

### ④ 教科会の充実…☆教科指導法を研究，共有，実践する。

☆研修などの得られた情報を共有する。

☆定期テストの吟味を行う。

### ⑤ 学力実態の分析・把握…生徒の学力実態を分析・把握し，「確かな学力」の育成に向けて学力実態に沿った取り組み，指導を行う。→教科会・学年会で共通理解

### ⑥ 家庭学習の定着…☆基礎基本や応用力のつけ方など，家庭学習（自学自習）の方法を伝えるとともに促進に力を入れる。

☆手だての必要な生徒についても達成できるような内容の課題を与える。

☆全学年で家庭学習課題の日を毎週木曜日に設定し，家庭学習の定着と基礎学力の向上を図る。家庭学習は国社数理英の5教科で行う。

### ⑦ 朝読書の徹底

### ⑧ 終学習のまとめテスト実施

### ⑨ テスト前・休業中の学習会の充実

## （取組結果を検証する）各種指標

- 全国学力・学習状況調査，学習確認プログラム等の結果
- 生徒質問紙の結果
- 生徒，保護者，教職員アンケートの結果

## 中間評価

## 各種指標結果

- 全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）は，今年度実施せず。
- 学習確認プログラム2年生は実施済みであるが，結果はまだ到着していない。
- 学習確認プログラムの結果においては，3年生の指数は前年度より少し下がっているが，ほぼ同

<p>程度といえる。1年生のジョイントプログラムにおいても良好な結果であった。</p> <p>○学校評価アンケート結果より、生徒・保護者の「家庭で毎日の予習や復習に努力していると思いますか。」の項目で、“できている・おおむねできている”が、生徒+9.2%・保護者+6.6%、と向上している。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>今年も生活習慣と学習規律の確立により、生徒たちは落ち着いた環境の中で学習に取り組んでいる。そのような背景が生徒の学力の安定につながっていると考えている。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、学校休校期間があったが、その期間の家庭での学習活動が習慣化し、学校が再開しても引き続き「家庭での予習・復習」につながったのではないかと考えている。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>年度当初は難しかったが、教科指導の一部緩和に対応して、学び合いの学習形態にもどすことにより、小グループによる“主体的・対話的”な授業を、展開できた。若手の教員も多く、さらなる授業改善、授業力向上に取り組む必要がある。</p> <p>家庭学習については、「家庭学習の日」を毎週木曜日に設定し、部活動休日とも重ねて、家庭学習に集中できる条件を整えた。3年目を迎え、その効果が上がってきたと考えている。今後は、家庭学習を取り組めていない生徒に対する丁寧な対応を行っていく。</p>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>○学習確認プログラム等の結果</p> <p>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>○先生方が中学生をしっかりと教えていると感じている。</p> <p>○これからリモートによる授業もあると聞いているが、対面による授業も大切にして欲しい。</p>

最終評価

<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <p>後期学校評価アンケートの「あなたは、家庭で毎日の予習や復習に努力していると思いますか。」では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が、前期と後期を比べて、生徒と教職員はほぼ同じであるが、保護者は少し下がっている。「あなたは、家庭で進路や将来のことについて考える機会が持っているといますか。」では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が、保護者はほぼ同じであるが、生徒と教職員は上がっている。</p> <p>学習確認プログラムの結果では、1年生は6月と12月を比較すると、指数が108から110に少し上がっている。2年生はR2の1月と10月を比較すると、指数が116から115に少し下がっている。3年生は6月と10月を比較すると、指数はどちらも114で同じである。全体的に安定した結果であった。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>前期は学校閉鎖期間の影響もあり「家庭学習」が習慣化していたが、後期は少し形骸化し、その習慣が崩れたのではないかと見られる。進路については、この社会状況の中、総合的な学習の時間や学活の時間に、「進路や将来のこと」について考える機会が持てたのではないかと見られる。</p> <p>学習確認プログラムの結果から見ると、一定の学力の定着がうかがえる。</p>

	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>G I G Aスクール構想の下、生徒にPC（タブレット）が、すでに全生徒分が到着した。そのICT環境をうまく利用して、生徒の学力の育成に、プラスにしていく準備をしている。また今年度よりの「生き方探求パスポート」を有効に活用して、進路に関する意識を向上させていきたいと考えている。3月には指導主事による研修を受けたが、新学習指導要領に向けての指導と評価の一体化を、引き続き、教科会・校内研修等を通してさらなる授業改善、授業力向上に取り組む必要がある。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>学校全体が落ち着き、良い雰囲気での学習できている。今の雰囲気を維持し、向上させるために、今後も地域やPTAと学校が協力し合うことが大切である。</p>

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <p>① すべての教科・領域において、しなやかで豊かな感情を養う指導を行い、より良い人間関係を築く自主的・実践的な態度を育成する。(正しい言葉遣い・挨拶・感謝の気持ち)</p> <p>② 道徳の時間を中心とし、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考え共感できる心を育成する。</p> <p>③ 生徒一人一人を大切にしたい信頼関係構築のための心の通った指導・見逃しのない観察・先を見越した対策を推進する。</p> <p>④ 自尊心を高め、一人一人生徒自らの力が発揮できる、集団づくり、学級経営を推進する。 すべての教育活動で人権の大切さについての理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <p>① 生徒実態やタイムリーな話題に対応した学習内容、また将来につながる学習内容の精選 生徒同士の話し合い活動の充実</p> <p>② 「特別の教科 道徳」の充実 豊かな体験を通しての道徳的な指導の推進</p> <p>③ 全校的な教育相談期間の設定、日頃の休み時間や放課後での生徒との語らいの重視 クラスマネージメントシート・いじめアンケートの実施、分析、教職員間の共有</p> <p>④ 集団作りなどによる、一人一人が自己有用感を持てる取組の推進</p> <p>⑤ あらゆる教育活動の場面での、人権の大切さを意識した指導の定着</p>
<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <p>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</p> <p>○生徒質問紙の結果</p> <p>○道徳の時間のワークシートや評価</p>

### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>○生徒、保護者アンケートの結果より、昨年と同じ項目の「時間を守って活動できている」「約束事を守って活動できている」「相手の立場や周りの様子を考えて行動できている」「友達と協力し</p>
--

て様々な取組に参加できている」の4項目はおおむね良好であったが、「その場にふさわしい言葉遣いができている」「人をおもいやる言動がとれている」の2項目はポイントが少し下がった。また、今年よりの項目の「道徳の授業で考えたことなどが生活に役立っていると思いますか。」で、生徒①よくできている 23.6%②大体できている 51.4%③あまりできていない 12.7%④できていない 5.2% , 保護者①14.8%②63.7%③11.5%④1.1%⑤どちらでもない 8.8%であった。

○生徒質問紙は実施せず。

○道徳の時間のワークシートや評価より、1時間の授業で、取り扱った項目について考えたり、生活に役立てたいという気持ちが芽生えたりしているが、そのことが、日常生活にまではつながっている生徒は多くない。

自己評価

**分析（成果と課題）**

高いレベルで維持できている4項目については、日頃の指導が規範意識の醸成の育成につながっていると考えている。「その場にふさわしい言葉遣いができている」「人をおもいやる言動がとれている」では、新型コロナウイルスに係るTVやSNSの過激な言動の影響があるかもしれない。

今年よりの項目「道徳の授業で考えたことなどが生活に役立っていると思いますか。」も、“できている・おおむねできている”が、生徒 87.3%、保護者 78.5%、教職員は 96.7% で、おおむね良好と考えている。一方で、教職員と生徒、教書員と保護者で10～20%近く離れているのは、授業の内容が家庭内にまで影響を与えていないからだと考える。今後は授業後の日常生活でそのことが役立てられるかを意識して授業づくりを進めていく。

**分析を踏まえた取組の改善**

言葉遣いについては、生徒どうしだけでなく、教職員も含めて一層の徹底を図っていくことが大切である。また新型コロナウイルス関連の人権に関わる出来事も発生している社会情勢の中、ますます道徳教育・人権教育の重要性が高まってきている。引き続き自尊感情や自己有用感の育成につなげていきたいと考えている。

また、道徳の本格的な評価を適切に行い、生徒・保護者・地域の方々への説明も丁寧に行うことにより、桃陵中生として“心ある”あたたかい人間関係づくり」を構築していくことを前進させる。

**（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標**

- 生徒、保護者、教職員アンケートの結果
- 道徳の時間のワークシートや評価

学校関係者評価

**学校関係者による意見・支援策**

- 「特別の教科 道徳」となったが、この社会情勢の中、道徳の授業は重要であると思う。今後も大切にしたい。
- 何がはやっているか、SNSの危険性がどこにあるかが、よくわかっていないので、もっと啓発して欲しい

最終評価

**（中間評価時に設定した）各種指標結果**

後期学校評価アンケート「あなたは、道徳の授業で考えたことなどが生活に役立っていると思いますか。」では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が、生徒と保護者は前期と後期を比べて、ほぼ同じであるが、教職員は少し下がっている。「あなたは、その場にふさわしい言葉づかいができていますか。」では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が、生徒・保護者・教

<p>職員とも少し上がっている。「あなたは、人を思いやる言動がとれていると思いますか。」では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が、生徒や保護者は上がり、教職員は少し下がっている。道徳の時間のワークシートは、前期と同様に、日常生活にまでつながっている生徒は多くない。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>道徳教育については、その評価が本人・保護者へ学期末の通知表で知らせることになっている。教職員には今年度まだこれからの取組であるにとらえている。言葉づかいについては、道徳教育・人権教育・新型コロナに関する学習などの教育活動が、一定の成果を上げている。思いやりについては、教職員はまだ不十分にとらえている。道徳の時間のワークシート等については、すぐに結果として評価できるものではないが、規範意識や他者を思いやる気持ちの醸成に向けて、引き続き取り組んでいく必要がある。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>今年度より「特別の教科 道徳」として展開しているが、年度末までにしっかりと準備していき、学年末の「通知表」や「学習指導要録」の文章表記の評価を適切に行い、そのことを検証し来年度には一歩ずつレベルアップを図りたいと考えている。また相手への「思いやり」の低い部分については、日頃の教育活動の中で生徒に寄り添いながら、様々な機会を見つけて道徳教育を充実させ、人権学習を通じて人権意識を高めていきたいと考えている。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>家庭での道徳観はやや低下しているのではないかと思う。本来家庭や地域で対処すべきことを学校におねがいしていることは残念だが、学校のさらなる工夫した取り組みを期待したい。</p> <p>落ち着いた環境の中で、子供たちがのびのびと学習・活動できていることをうれしく思っている。今の状況を維持し、さらに発展させていくために、一層の連携・協力を考えていく。</p>

### (3)「健やかな体」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <p>たくましく生きるために、健康や安全を考え、行動する力を育成する。</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教職員の健康教育に対する意識を向上させ、新型コロナウイルスをはじめとする諸課題に対して、学校全体で取り組む体制を構築する。</li> <li>② 教職員対象研修会（食物アレルギー）、救命救急研修会の実施。</li> <li>③ 担任を中心に毎朝の健康観察の実施。心身の健康の大切さの意識を高める。</li> <li>④ 行事前の健康観察週間などを通して、規則正しい生活習慣の大切さを指導する。</li> <li>⑤ 学校保健委員会の実施。</li> <li>⑥ 保健だよりや掲示物を通して、健康への意識を高める。配布時に担任による保健指導。</li> <li>⑦ プール委員会、性教育委員会の実施。</li> <li>⑧ 歯の健康の指導。う歯治療100%に取り組む。</li> <li>⑨ 目の健康の指導。視力低下の生徒の受診を勧める。</li> <li>⑩ 健康診断を健康教育の機会ととらえ、健康への意識を高める取組を充実させる。</li> </ol>
<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</li> <li>○生徒質問紙の結果</li> <li>○検診結果等</li> </ul>

中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒質問紙は実施せず。</li> <li>○生徒，保護者，教職員アンケートの結果より，「家族と一緒に健康について考える機会が持っている」の項目の“できている・おおむねできている”が，生徒-4.0 保護者+8.1 教職員は+13.6 となった。</li> <li>○保健室の来室状況は，今年も比較的少なく授業中のエスケープによる来室もほとんどない状況である。</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>家庭でも学校でも大人はコロナ禍で“健康”について考える機会は増えたが，生徒の関心は高くない。生徒にその対策を伝えるだけではなく，時間をかけて考えさせる必要がある。</p> <p>学校の落ち着きにより，不必要な保健室利用は少なく安定している。別室指導の生徒が不調になったときに訪れ，意欲が回復して別室に戻ることが見られるが，不調や困りを抱える生徒の居場所づくりがさらに必要である。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>諸検診の結果や支援の必要な生徒の状況などを学校全体で共有する研修を通じて，学校全体で健康教育に取り組む体制をこれまで以上に構築していきたい。また，保健だより等を活用し生徒への啓発も継続していく。</p> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒，保護者，教職員アンケートの結果</li> <li>○検診結果等</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生はこのコロナ禍の中でも元気だと思う。</li> <li>○生徒も健康については毎日いろいろ考えていると思います。コロナについて答えたくないと感じている生徒がいることで，そのようなアンケート結果になったと考えられる。</li> </ul>

最終評価

	<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <p>後期の学校評価アンケート「お子さんと，一緒に健康について考える機会がもてていると思いますか。」では，「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が，生徒は上がっているが，保護者や教職員は少し下がっている。生徒の傾向が保護者や教職員の傾向に追いついてきて，ほぼ同じ傾向になっている。</p> <p>学校保健委員会を開催できず，諸健診の結果等について意見交換することができなかった。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</b></p> <p>健康について考える機会が保護者や教職員と生徒では時間差があり，現在ほぼ同じ傾向に至ったのでは，と考えている。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>生徒も保護者も教職員も，自分や家族の“健康”を考える1年となった。今後とも自分の健康を大切にする生徒になるように，日頃の健康教育など具体的に取り組んでいきたいと思う。</p> <p>来年度の学校保健委員会については，集合することが困難なときはZoomを利用するなど，できる方法を考えていきたい。</p>

学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> コロナ禍のなか、安定した状況であることに安心している。引き続き、保護者への啓発や生徒への働きかけに地域としても協力していく。体力の低下が懸念されるので、保健体育や部活動で、できる範囲で体力作りを進めてほしい。
---------	---

(4) 学校独自の取組

<b>重点目標</b> 地域ぐるみの教育を一層推進する。
<b>具体的な取組</b> ① 地域行事の運営等に生徒の参加を促す。 ② 地域活動への参加を通して、次代の地域活動の担い手となる自覚を持たせる。
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b> ○運営協議会などの意見集約 ○生徒アンケートの結果

中間評価

自己評価	<b>各種指標結果</b> ① 学校運営協議会などの意見集約より、 コロナの影響を受け、ほとんどの地域行事がなくなったが、仕方がなかった。地域行事の再開後は中学生の主体的な関わりができる地域行事を企画したい。 ② 生徒・保護者・教職員アンケートの結果より、「家庭に貢献していると思うか。」「地域の活動に貢献していると思うか。」の2項目の結果を比較すると、生徒・保護者・教職員の三者とも「家庭」が高く、「地域」が低くなった。
	<b>分析(成果と課題)</b> 学校運営協議会より、この地域行事ではこの結果は、仕方がないと考えられる。 生徒・保護者・教職員アンケートの「家庭や地域の活動に貢献していると思うか。」の項目を、今年より「家庭」と「地域」に分けた。コロナ禍の下、家庭生活では積極的に取り組み貢献したが地域では貢献すべき行事そのものがなかった。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 学校運営協議会より、この社会情勢の中では地域行事の実施は大変難しいと考える。再開後は生徒の関わり方がよりよくなるように工夫する必要がある。 新型コロナウイルス感染防止対策の上、生徒が地域行事に参加できるようにしていきたい。
	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b> ○運営協議会などの意見集約 ○生徒アンケートの結果
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> ○コロナの影響を受け、ほとんどの地域行事がなくなったが、仕方がなかった。地域行事の再開後は中学生の主体的な関わりができる地域行事を企画していきたい。 ○この社会情勢の中では、地域行事の実施は大変難しいと考える。再開後は生徒の関わり方がよりよくなるように工夫する必要がある。

最終評価

<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <p>後期の学校評価アンケート「あなたは、積極的に家族のお手伝いをするなど、家庭の活動に貢献していると思いますか。」では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が、生徒は少し上がり、保護者と教職員は少し下がっている。「あなたは、積極的に地域のお手伝いをするなど、地域の活動に貢献していると思いますか。」では、生徒や保護者はほぼ同じであるが、教職員は少し下がっている。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>「家庭生活」で生徒は積極的に取り組んでいるつもりだが、実際は貢献できていない、と見られる。「地域行事」がまだほとんどないが、今後は新型コロナウイルス感染症対策をしっかり行い、生徒が「地域行事」に積極的に参加できるようにしていきたい。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>コロナ禍でも地域の方々やPTAの方々の活動は、減るどころか新型コロナウイルス感染症対策のため、日々の努力は増えているのが現状である。その努力の姿を「学校だより」「PTA 広報誌」「地生連の掲示板」をはじめ、あらゆる方法を使って広めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>コロナ禍のなか、地域とのつながりがほぼなくなっている現状だが、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底した上で、できるところから再開させていきたい。“集まらないけど、つながる。”というメッセージを発信していきたい。地域行事は減った分、家にいる時間が長く、家庭の中でうまくコミュニケーションができた家族も少なくない。これを機に地域行事そのものの必要性を吟味して、本当に有効な有意義なものを取捨選択していきたい。PTA メールを有効利用していきたい。</p>

（5）教職員の働き方改革について

<p><b>重点目標</b></p> <p>教職員の人間性を高め、生徒に真に必要な総合的な指導を持続的に行うことのできる環境づくりを目指す。</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化を目指す。</li> <li>② 学校の組織運営体制を見直し、効率化を図る。</li> <li>③ 勤務時間の在り方に関する意識改革を行う。</li> <li>④ 外部支援を活用し、教職員の教育活動の一部を軽減する。</li> <li>⑤ 勤務時間を「枠」してとらえ、その「枠」の中で勤務する習慣づくりを推進する。</li> <li>⑥ 庶務事務システム・出退勤システムを各自が確実に入力・点検・振り返ることで、勤務を俯瞰的に見る。</li> </ol>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <p>○出退勤システムを利用した時間外勤務の見直し</p>

中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>○出退勤システムを利用した時間外勤務のデータより、4月 80H↑1人、5月 45H↑0人、6月 45H↑9人 80H↑1人、7月 45H↑11人 80H↑1人 100H↑1人、8月 45H↑2人、</p>
--

7月 45H↑7人 80H↑2人 100H↑2人となった。

自己評価

**分析（成果と課題）**

4月は年度当初のため、5月は学校休校期間を含むため、6月・7月は学校が再開されたため、8月は大半が夏季休業のため、9月10月は、コロナ禍の下、消毒作業や新しい学校生活を構築・実施するため、昨年と比べても時間外勤務は多かった。校務支援員の配置により、校務の効率化が図れた。

**分析を踏まえた取組の改善**

今後もこの社会情勢は続くと考えられるので、新しい学校生活の中、カリキュラム・マネジメントを行い。スクラップアンドビルトを行って、教育活動の精選を図る。時間的なことを改善することはすぐには難しいが、ストレスチェックの結果を活用するなど教職員の心のケアを校医、養護教諭、SCとも相談しながら進めていきたい。

**（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標**

○出退勤システムを利用した時間外勤務の見直し

学校関係者評価

**学校関係者による意見・支援策**

○この社会情勢の中、先生方のやるべきことは多く、大変だと思う。やるべきことをしっかりとした上で、時間的なことは難しいと思うが、ストレスを開放するようにしてほしい。地域・PTAは学校を応援したいと考えている。

最終評価

**（中間評価時に設定した）各種指標結果**

出退勤システムの利用した時間外勤務のデータより、10月 45H↑16人内 80H↑6人、11月 45H↑14人内 80H↑4人、12月 45H↑10人内 80H↑1人、1月 45H↑6人内 80H↑0人、2月 45H↑6人内 80H↑0人となった。

自己評価

**分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題**

後期は45分授業で6時間授業と7時間授業を半々の割合で実施した。6時間の日には放課後学習会や全教職員で行う会議日とした。その影響により10月11月の時間外勤務は大きく後退したが、12月は冬期休業日もあり少し減少傾向となった。1月からは緊急事態宣言の発出のタイミングで教育課程がほぼ完了するとの見通しが立ったので45分6時間授業と4時15分までの部活動とし、完全下校を4時30分とした。その成果は大きく1月と2月は45Hを超えたのは6人のみであった。

**分析を踏まえた取組の改善**

部活動ガイドラインを遵守するとともに、平日の定時退校日の取組をさらに充実させ、引き続き出退勤システム等で管理・検証しながら取組を続けたいと考えている。

学校関係者評価

**学校関係者による意見・支援策**

引き続き、定時退校日の取組や電話対応終了時刻の設定等、学校の取組について理解したうえで協力していきたいと考えている。